

事務事業名	S L 運行協議会参画事業				担当	総務部 総合政策課 総合政策係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			増補版施策名			
施策名	4	観光の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成5年度～）		
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1総務管理費	7企画費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	真岡線 S L 運行協議会は、真岡線沿線市町のイメージアップと開発振興を図るために、沿線の地方公共団体が実施する S L 運行事業を推進する為に設立された団体であり、S L 列車の運行、S L 列車に係る各種イベント等を実施している。設置者は芳賀地区 1 市 4 町と筑西市、事務局は芳賀地区広域行政事務組合。 なお、S L 運行業務は協議会が真岡鐵道株式会社へ委託している。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 31年度実績 会議への参加 イベントの参加、支援  2年度計画 31年度実績と同様	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	会議参加回数	回	2	2	2	2	2
	イ	S L 列車に係るイベントの開催数	回	20	20	24	21	18
	ウ	S L 貸出し	回	2	2	2	0	0
エ								
オ								
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 S L 運行運行協議会 S L 運行	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	協議会会員数	団体	7	7	7	7	7
	イ	S L 運行日数	日	132	122	113	118	90
	ウ							
エ								
オ								
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） S L を運行し、多くの人に乘ってもらい、 真岡市や沿線市町のイメージアップ・観光振興に役立てる。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	S L に乗車した人の数	人	36,058	31,952	30,201	30,417	13,875
	イ	乗車率	%	60.1	57.7	58.9	57.3	30.6
	ウ	S L のまちとして真岡市を認識している人の割合	%	49.4	45.3	40.0		
エ								
オ								
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 観光の振興	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア	真岡市を訪れた観光客数	人	2,912,127	2,990,649	2,957,327	3,177,751	2,000,000
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	39,052	39,052	39,052	29,899
	事業費計(A)		千円	39,052	39,052	39,052	29,899
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	20	20	20	20
		人件費計(B)	千円	83	83	83	81
トータルコスト(A)+(B)		千円	39,135	39,135	39,135	29,980	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	令和4年5月3日まで真岡線に S L が走っていた。S L の豪快な走りを通して 21 世紀を担う子どもたちに夢とロマンを与え、誇りと愛着の持てる魅力あふれるふるさとづくりや、沿線市町のイメージアップと観光振興のため、平成2年から S L 列車の復元に着手した。 S L の運行を行う為に S L 運行協議会が設置された。（平成5年4月5日発足）
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・平成10年11月から2台目の S L C 11型を導入、重連運転を開始するようになった。 ・ S L ファンが多く、運行日には大勢のカメラマンで賑わっているが、運行当初に比べ、乗客数は年々減少し、ここ数年は横ばい状態にある。 ・ S L の維持経費（全般検査・重要部検査）等の増大に伴い、「S L のあり方の検討」を沿線市町で行うこととなった。（平成29年度） ・平成30年に S L C 11型の運行廃止が決定され、平成31年度からは C 12 のみの運行となる。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染拡大防止の観点から、S L の運休を行った。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	